

母(27)娘(8)のお話です。出産時のアクシデントにより重症新生児仮死の状態生まれ、重度の脳性麻痺になり、てんかんをもっています。そんな娘は現在小学校2年生になり、支援学校へ通っています。去年までは訪問学習といって自宅で授業を受けていました。希望は「通学」でした。当時私は当たり前前に学校へ通学出来ると思っていました。

娘はお友達の声を聞いては笑顔で笑って賑やかなのが大好きで泣くこともなく療育へ通ってました。学校へ入学したら色々な刺激を受けてもっと沢山の事を経験し、楽しい毎日が始まるんだろうと成長も楽しみでした。入学前、支援学校を何度か訪れ話をすると、肢体不自由児の受け入れがあまりなく、娘のような子は初めて受け入れるような感じの対応でした。1番最初にすぐ訪問の話をし、疑問を抱き、「全然通学出来る状態なんです！」と娘の事をもっともっと知ってもらえれば学校側の不安も取り除けるのではないかと何度か学校へ行き、伝え続けました。療育の先生や主治医の先生から学校の方へ娘の状態の事を伝えていただいたり出来ることは全てやりました。後は校長先生に直接娘の事を伝えたくて、親として「通学が希望です」と伝える場がほしくて、話す場を設けてもらいました。当日訪



ると、行き違いなのか話し合いの場ではなく、告げられたのは「今年度は訪問学習という方向で決定いたしました」でした。目の前が真っ暗になり、まさかの結果に驚き、「はいわかりました」とはどうしても言えず、私は話し合いのつもりで来たこと、決定を伝える場にしか思えないこと、学校側が不安に思っていること一つ一つに返答し、解決策を提案しましたが思いは届かず、訪問学習になりました。

訪問学習で担任の先生になって下さった先生が本当に良く、訪問学習の良さも知ることができました。ですが親子共々通学の希望は変わらず、通学に向けて先生と一緒に1年間動き出しました。訪問学習でしたが、娘と一緒に何回も学校へ行き1日みんなと過ごし、食事の仕方も実際に給食を食べたり、学校行事にも参加したり沢山足を運びました。どんなに通学できる状態であっても、させたくても認めてもらえない事がこんなにもあるなんてくじけそうになりましたが、先生のおかげで翌年(2年生)では通学できるようになりました!! 先生が本当に頑張って戦って下さって先生がいなかったら2年生でも通学できてなかったと思います。心の底から感謝しかありません。

通学になってからも色々な障害はありますが、一つずつ理解してもらえよう伝えて共有しています。ほぼ無理だと思ったことだとしても諦めずに行動し伝え続け、一人では無理でも力をかしてくる方々、周りの方に頼って一緒に頑張れたら奇跡も起こるんだなと思えました。

訪問学習で担任の先生になって下さった先生が本当に良く、訪問学習の良さも知ることができました。ですが親子共々通学の希望は変わらず、通学に向けて先生と一緒に1年間動き出しました。訪問学習でしたが、娘と一緒に何回も学校へ行き1日みんなと過ごし、食事の仕方も実際に給食を食べたり、学校行事にも参加したり沢山足を運びました。どんなに通学できる状態であっても、させたくても認めてもらえない事がこんなにもあるなんてくじけそうになりましたが、先生のおかげで翌年(2年生)では通学できるようになりました!! 先生が本当に頑張って戦って下さって先生がいなかったら2年生でも通学できてなかったと思います。心の底から感謝しかありません。

通学になってからも色々な障害はありますが、一つずつ理解してもらえよう伝えて共有しています。ほぼ無理だと思ったことだとしても諦めずに行動し伝え続け、一人では無理でも力をかしてくる方々、周りの方に頼って一緒に頑張れたら奇跡も起こるんだなと思えました。

第2弾 かなろいアート展

～カラフル3人飛び出す個性再び～

日時：2月23日(日) 10時～15時

場所：地域活動支援センターかなろい (住所⇒八女市本町114番地)

☆入場無料☆

ぜひ!お越しください!!

Luca(ルカ) 牛嶋七海 shiina

Like!

～かなろいのインスタ始めました～

～編集後記～

先月参加した研修会で「近い将来、福祉業界にもAIが導入されていくだろう」との話を聞いて、私も時代に取り残されないようにAIに関してアンテナを立てておくことにしました。

寒い冬が続いていますが、体調管理には十分に注意してくださいね。

S・T

リーベル通信

発行責任者：NPO法人リーベル

住所：八女市本町17-2

E-mail: liber-yame@marble.ocn.ne.jp

電話：0943-22-2610

FAX: 0943-22-2664

URL: http://liber-yame.net

リーベルネットワーク研修会

『自立支援協議会ってなに? ～どうして必要?何を話す?～』

八女市の自立支援協議会は平成19年6月に設置され、年2回開催をしています。これまで行政や福祉サービス事業所、医療機関等の事業所が参画されてきましたが、年数が経つにつれて、協議会の会員から「自立支援協議会とは何の会議なのか」「誰が参加して、どんな話をしているのか」など疑問を感じる声が出てきていました。そこで今回、自立支援協議会の目的や役割を改めて学び、不明点や疑問点を解消し、会員一人一人の意識を高め、活発な運営に繋げていくことを目的として研修会を企画しました。



令和6年12月23日、全国手をつなぐ育成会連合会 常務理事兼事務局長 又村あおい様を講師にお迎えし、自立支援協議会の概要(歴史、法制度)や目的、求められる役割、他自治体の運営方法についてお話しいただきました。

自立支援協議会を話す上で最初に『計画相談(相談支援)の必要性・重要性』を理解しておかなければなりません。そして、相談支援専門員が作成するサービス等利用計画(以下サ計画)では、できなかったこと(課題)「見える化」する必要があります。「見える化」とは計画相談の中のできたことだけでなく、できなかったこと(課題)も含めてサ計画に落とし込むことであり、課題があることを評価し、困りごとや将来への希望、求める生活等も盛り込みます。このサ計画は、本人や家族にとっての課題や将来展望に込め、地域生活を実現するためのライフプランでもあるため、具体的な課題を「見える化」することが必要・重要であることを学びました。

※例として相談支援専門員を挙げましたが、見える化は相談支援専門員でなくてもできます。

自立支援協議会の目的と役割は、計画相談員等が「見える化」した課題を抽出し、参加する地域の関係者が解決に向けて協議を行う役割を持っていること、そして、障害のある方が地域で安心した生活を送り、より良い生活へ変わっていくことを目的としています。

この研修会で学んだことを活かし、障害医療福祉分野等に関わる者に限らず、当事者・家族・地域住民等を含めた地域に住む全ての方が参加して、共に地域を考える協議会を目指していきたいと思えます。

～障がい者が虐待を受けたり、受けている所を目撃した際はお電話ください～

八女市障がい者虐待通報ホットライン ☎090-2580-0294 (24時間・365日の対応)

リーベルネットワーク会議

令和6年10月3日に今年度1回目のリーベルネットワーク会議を開催しました。33機関50名の参加がありました。

まず、報告事項として、部会活動や第28回の自立支援協議会について報告をしました。

次に協議事項として「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築(以下、にも包括)」について、今後八女市

において「にも包括」を推進していくためにどのような取り組みが必要かグループワークを行いました。あらかじめ国が示している構成要素の7項目を提示し、協議の取り掛かりにいただきました。児童、就労、入所、医療機関、行政など多機関でのワークでは、①対応に苦慮している(本人の課題として、体調が整わない、問題行動、金銭管理、支援拒否、不登校など。家庭の現状課題として、保護者の高齢化、複合的な課題を抱える家庭など)。②精神科医療との連携の難しさ(長期入院になりやすい、児童の専門医が少ない、入院前後の連携の場がない)。③地域の理解が必要(見えづらい障害がゆえに理解が進まない、就労先の理解は進んでも格差がある、住居については精神障害の入居はお断りなど厳しい現実がある)。他、八女市は地域が広く直ぐに訪問に行けない、受診に繋がりにくいなど、様々な意見が出ました。対応として、支援者の縦横のつながりが大事であり、支援者の研鑽やケア、切れ目のないサポート、連携が必要との声も多く上がりました。活発なグループワークがなされ、参加者一人、一人が少しでも住みやすい地域にするためにどうしたらよいか、考えていただいている姿が印象的でした。今後は、今回の意見を再度自立支援協議会へ報告し、今後の進め方など協議をいただきたいと思います。

最後に、障がい当事者の作品展示、販売などについて提案を行い、以後、事業所へのアンケートなどを取り、地域で活動を始めること、賛同者を募りました。又、就労事業所の意見交換の場を設けていくことも報告しました。

閉会の挨拶は、社会福祉法人 楠 会 理事長木下秀幸氏にいただきました。顔の見える関係を作り、ネットワークを強固にする必要がある。今後地域で連携していきましょうと力強い言葉をいただきました。



八女市障がい者等自立支援協議会

今年度2回目となる協議会を12月19日に開催しました。

まず、報告事項として、前回の協議事項について経過報告の他、①八女地区障害者地域生活支援拠点等事業のガイドラインの改訂版を12月に公開し、「緊急時の受け入れ・対応」機能の面的整備加算が算定できるようになったことを報告。今後、より多くの緊急時受け入れの登録事業所が増えることを期待します。②医療的ケアに関するアンケート調査の実施について報告。今後結果をまとめ、部会や協議会で報告予定です。受け入れ側の実態調査の提案もいただきました。

次に以下の3点について協議を行いました。

①精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築について。10月3日に開催したリーベルネットワーク会議でのグループワークの意見をまとめ、報告しました。委員の方に地域の現状を把握いただき、今後八女市としてどの部分から協議を進めるのか、構成員を決めて協議を進めることの承認を得ました。次のネットワーク会議で協議を進めたいと思います。

②障害児サービスについて。ここ数年児童の児童発達支援事業等の利用希望が増加しており、令和5年度から利用希望者と事業所の定員を比較し、事業所が不足している現状があり、今後の新設事業所の取り扱いについて協議をいただきました。委員からは不足していれば必要だが、仕組みづくりや、質の担保も必要であり、選考の基準などの整備の必要性があるとの意見をいただきました。今後、内容について協議を進めます。

③来年度の取り組みについて。今年度は協議会の可視化を目指して取り組んできました。部会などの意見を、ネットワーク会議や、自立支援協議会へ挙げ、協議された内容を降ろし、発言したことがしっかりと上に届き、巡回される仕組みに努めました。直ぐに出来るものではなく、次年度はより一層この仕組みを強固にしていきたいことを共有しました。



～民生委員児童委員の方々との繋がりを～

令和6年12月4日、おこなす八女で開催された八女市民生委員児童委員連絡協議会全体研修会にお招きいただき、『ともに育てよう地域の福祉～障がい福祉の相談員の立場から～』をテーマにお話しさせていただきました。基幹相談支援センターの活動を知っていただくために、NPO法人リーベルについて、また具体的な活動例をもとに基幹相談支援センターの役割についてご説明させていただきました。皆様、熱心に耳を傾けていただき、ご質問も複数いただきました。今後さらに周知を進め、連携を強化していくためには、個別の支援や今回のような研修会を通して顔の見える関係をつくり、共通言語を増やしていくことが大切だと思っています。共に学んだり、意見交換できる場をつくっていきたいと思います。



ペアレント・トレーニング講座

今年度も障害を持つ子の保護者を対象としたペアレント・トレーニング講座を実施し、4名の方にご参加いただきました。みなさん、トレーニングを重ねていくうちに自身の関わり方や子どもの行動の変化を実感されました。参加された方の受講後の声を少しご紹介します。

- ・以前よりイライラしたまま子どもに声掛けすることが減った気がします。普段の生活の中でここは無視が効くかも？など少し余裕をもって考えることができる時が増えました。
- ・家庭ですぐに実践できる内容なので継続してできるよう心掛けたいです。親が変わらないと子どもも変わらないと改めて教えていただけたと思います。
- ・褒めることを意識できることが増えてきたような気がします。いつもできるわけではなくても意識することが大切だと感じています。
- ・自分自身を見つめ直すきっかけになりました。息子のためと思って参加を始めたペアトレでしたが、娘たちそして私自身の為が一番だったと思いました。

